

「仁の心」で時代乗り切る

CAL研究会 大阪で研究会

【大阪】CAL研究会氏が基調講演。「新型

会は一〇月二三、二四の両日、大阪市内で研究会を開催した。テーマは「コロナの時代をどう勝ち残っていくか」。

同研究会の生川正洋

氏が基調講演。「新型コロナウイルスはSSにもかなりの打撃を与えた。将来の主力商品と見なされているTCS（トータル・カーケア・サービス）の中で、満期性の商品であるように変わろうともSSはサービス業。サービスの信頼関係によって成り立つ。どんな忙しい時でも申し出があれば笑顔で二つ返事で引き受ける、約束はどんなことでも必ず守る、相手が七〇点の回答を求めているときは必ず八〇点以上の回答を出す、これらを守って三年続ければ間違いなく差別化ができて繁盛店

になる」と強調。さらに「厳しい時代を乗り越えるためには『明るく元気な姿勢』を貫くことだ。明るく

元気な人の周りには自然に人が集まる。人が集まればそこには商売人にとって最も大切な縁と運が生まれる。天運が巡ってくる生き方を心がけると共に『仁の心』を持って人に接してほしい」と呼びかけた。

智頭石油（鳥取県智

頭町）の米井哲郎社長の同研究会が開発した「CALサブスクシステム」「CALロケ」の概要を説明。

「CALサブスクシステム」は洗車、オイル交換などのサービスを月々定額で利用できるシステム。智頭石油では定額洗車サービス「洗（あら）エール」として開始。

「CALロケ」は営業車位置情報システムで、社内用、外販用共に利用可能。「ほけレン」は保険代車販売管理システムで、筑豊太平石油（福岡県飯塚市、高山幸嗣社長）で先行してスタート。米井氏は「競合が少ない裏ビジネス。売掛リスクはなく収益性も高い」と述べた。

智頭石油の中本智昭TCS部長は「勝ち組

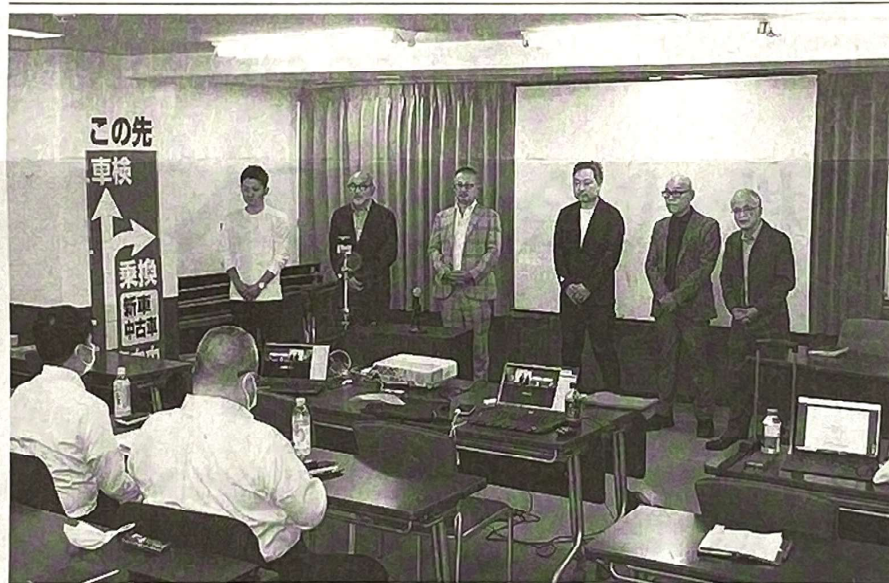
のスタートラインに立った」と題して同社の取り組みを発表。「人材がそろい業界で扱うすべてのことをできる体制が整った。マーケットへの発言力、影響力も増した」と自己評価した。

目見田商事（兵庫県宝塚市）の目見田純也社長は「先手必勝の精神こそ勝ち残るために必要」の演題で講演。

「社員に本気で理想、理念を語り、その実現のための計画、戦略、戦術だと納得してもらうことが大切」と強調した。

山商（京都府南丹市）の山下真司社長は「車販事業の成功に取組もう」、三浦石油（大阪府富田林市）の

三浦忠良社長は「三浦石油の新時代に向けた挑戦」の演題でそれぞれ講演した。



研究会の様子（右から生川、三浦、目見田、山下、米井の各氏）

三浦忠良社長は「三浦石油の新時代に向けた挑戦」の演題でそれぞれ講演した。

三浦忠良社長は「三浦石油の新時代に向けた挑戦」の演題でそれぞれ講演した。